



六
道
士
會
錄
二

^ 13
3041
2



門へ 13
3041
巻 2

六道士會録卷之二

目録

走込田へまき者田ふべうがは者之事

同心得之談

西玉みて子討仕損之物語

隣家より垣を潜り来者之談

狼藉者苗家心得之談

弓田馬場みて出合喧嘩之評

助右刀之談

昭和九年
七月二三日
終末

北回みて仇討短き物語

道中弘法等心得の徒

菊池安房狼籍の首組苗の物語

古人短刀故用ひの談

童子一僕と縛し物語

北回みて火災足溜塔硝薬の先登

六道士會録卷之二

佚斎樗山著

走込田へき者田へうさ法者之事

或人のいづく主人は屋敷みて七のま自分

のをあみてとあを走り込者城らあひて生

さぬといふと一通りか法なるまをうらに如

うふまき者ゆり主殺し親殺し免勿

論のまなり或ち金銀を欲侍母似合さる

事密まホの人城討立退く法者すそ外話

厚ぶつと縄ぬけ死罪切後此場ををりて

つげ本家とのけま人と對して不義不
忠の者あり其上檢仗のそれを咎のこれ
がた申なり傍輩れ派れくして科不
ちいふをもつりふん比懸あるま人れ怒り
おのり派あれお乃日が死不換りくる命を
のがまんこめふ迹本家とのハ不義ふた者
細奴を侍あり是故ろくふ無道みあはれ不
ふよめあま人とま人とのみ恨ふなる事
かろふ若もおのまがま人へ對してれ不忠也

まて不義無道の者故にほまてく眾れ支
者故咎ふおといハ不義不仁あつまあはれ得
あふべき申まつまかくれこと此者みはこまつ
この泉べうろざれか理故いしきこう勢恥め
て出いぬちまこの凡人を討く他の屋交へん
しつらハ殺まれ時のまき風とみえり此
時考たたみち敵玉れま不義不義乃りまひま
く男役故法とめま我をこのま本家者をハ
かこひて出さぬを以て武士れ此地とい此母

と以てかき録し我れ用みも立へよとの志を
骨ある侍をおもむの情をまたと有へ今
吾れ治世をなす法家母こむく親族を
きあつて人殺ししてあつて逃れぬ故も
くく一家一親ハ勿論先の人母も苦勞を
く我命を少し生延家まであり人殺し
たはは家が本意を遂げらるる場も後
切死しんも勝つて
田ん侍の法

田ん侍の法

あつていよく走つてこそ者れどあつて後より
追まると時此方へ決してあつてといひ
をりすこ六出しの申をまうらあつてなど
いふもあつていふも時を追ふ者
者両目を失ひやむことを得ることだ論み
なりすれまき申すお果しことおれもの也
ん得るべしんも勇をうりあつてことだハ
屋をくりにいふく又失ひて追ふれ者
あつていよまのこつてあつていひ

ア仕形ありまれば主人と主人とのいひえ
みなるものなりよき毎へ志す毎へ

西回みて手討仕損じ物語

むくし西玉のさ家家中みてる討をさる
を譜代のさあ堂うしより仕付てあま
故小邪魔小成く打換じか一切あまふ
くまりの主人あまの堂あ切ころして
追ひてまごも他の屋敷へまごころ先
の主人を案内みくうこひあまこころに小じ

まらしよよひくらのひ討しる者を手
討の仕換じにまらして終小僧人しり
案内みくうこふまど死者城うまの
もなき傍に家城宿人をもさり勿論ひ討せ
家形はあぬものありありあしめて疵を付
てまみう坊はひ討乃仕換じになる物なり
かやの事ち書あひすこ下こみて志す物
おくべきことあり或人女子を他へ嫁してツ
くくけりまがく回夫はあまき人なり

りの討をどせばいさるは討にぬ物
 たり科人小ねつるもぬ刃にて居べしと
 いふ夢やころ是等も物よ公得る人きま
 かり切さる討者少りうまき主人へきり
 付まどせばあやうは事有り是小依く前
 の人ともあつるの當は申小切捨らるは尤
 乃事あり喧嘩の裁判ありみし心得ある
 へ事申仕開ありまればお心にたり事あ
 りかきるは色をうけて裁判する物あり亦

在むこと故得むくふらせんといふ
 あらり小婦人小兒はかくべうの人を志
 ばめぬみおさぬやみて討をうらみ
 よりたやこれ者みまよはは傍軍みは
 ころ一是非を論せははまやうふ牛て討
 其へ一亦傍軍の討する側小居るん
 みはあやうは事何はなまうて討に
 毎一細よりみざりに討へうはあ討換し
 る向い主人はみしあまうたはうら

為^と庭^に一^は乞^にみ^はは^つて^は得^るお^れぬ^る一^のこ^の
主人^のの^よめ^うり^ふな^ずめ^さう^にな^まひ^し
み^{より}討^つら^うこ^のこ^のり^ふて^はよ^う一^のこ^の
と^つつ^し

隣^り家^{より}垣^を潜^り来^る者^は決^じ

お^れが^みて^隣より^垣な^らず^にま^ま家^の
何^り宵^乃内^ちれ^てま^ま人^子迷^見付^て捕^へ
ら^せて^えれ^ば隣^家に^奴僕^なり^さう^と
志^のふ^神み^しな^くや^まる^は宵^の内^ちめ^て出

産^く盗^ふと^糸ひ^みて^と世^にな^らぬ^もた^の
主人^下女^奴切^殺一^其上^みて^妻奴^殺さん
お^とさ^てた^れ中^に私^心の^神ふ^ゆに^隣と^中
か^秘し^ぬ態^をえ^し留^めて^中に^る子^迷法^を
去^る勢^やな^らず^にあ^らし^つみ^は徒^らぬ^お海^を
一^強は^{主人}の^傍ふ^にな^らぬ^お氷^がく^垣を
く^まり^去る^や中^にと^り亭^主あ^らま^はい^は
れ^刀み^らく^出ま^すこ^の大^戸は^より^みら^れぬ^一
う^小子^細あ^らし^我ぬ^らし^とけ^者を^から^ぬは

してそ付くくうふらるるの繩をうけさせに
 て出まわりおこれま切門をたき内小入
 これど何乃かぐる事もれく主人小あさくを
 常は通ちり人を殺しぐるなうはせも足
 以書し側母あつ亭主何事小報中本主
 あふとり小礼心らき神もれ客のい
 く何のさなるき事となし言幸ま同
 さしてかえりたる事もさしはる僕小入
 なる事あつ今昔せんさく勢んとおもし

膏より門を志め並尋ら小みえびといふ
 の同と申れま者か若志まこり
 強きあふまこりし事並母うへま彼加め並
 くる者なけして純明しき小隣のま
 人のいひ小お連れし者れいそく成は
 小私不届の成直度ひてせんきあるべし
 今膏欠落仕家へし門と出ひ処小後を
 おろし中入るおののれざる事とがん
 小とれつもの事あつ中入る主人礼心中

家の内うちにゆく人を討うちちのめてへんへんつとま出いけり
 主人しゅじん既すして追おうけ出いふ向むかより侍さむらい衆しゆの
 才さいにまるととどく狼ろう藉せき者しやとめて終はつとと
 廻こをうけまゝふうの人ひと抱かまれる者ものみく
 立たむうい追おまるく切きせまりるあひ
 志し取と人ひとふあらびとも途とち中ちゆうをども仕し待まちをえんら
 けこのこののちのひのをを目めしてして終はつととと廻こをか
 ををいはせすこの立たむういの我われあへ来きぬまらに
 討うちちの方かたへ追おひつまるくくはは毎まいににあら家いえ

よむむうの一切いらば討うちちめめ可かれる
 たたももなくなく討うちちのまま勢せいををえんせく討うちちの助すけて
 このいいづづへへいいづづへへはは是ぜ非ひ好こう我われり
 ちちををああいいづづへへいいづづへへははおおくれのはは法はふ
 かりかりはは木きのの本もとハハ心こころほほるるべべきき事ことれるに
 是このの田で馬ば場ばうをを出い合あ喧けん嘩かしし評へい
 先せん年ねんにに戸とをを田でのの馬ば場ばうへへ出い合あうう打うち果ぐり
 ころころものものああつつにに双そう方ほうにに助すけ力りき十じゅう人にんををりり或ある
 無むくくはは死しししるるももああつつにに或ある人ひと先

を禪していさく惣じて喧嘩口論もろん
 氣より出さずいづもすこむむこと成得
 ば美程不すりてたまに死すみもあは
 己ぢ居して其上みく堪忍ありぬ事な
 らば近くとより事初より並不利殺
 手場母く後なき原ぶる死べしおのつあ
 て身を加ふんちまれば仕換むる事ハまき
 物あり又たのびくく悔く堂先を切ん
 とあつ心より仕そおれおものあり亦志ハ

勇なれども血氣不せまりて肉志びりさる
 ざれば仕換むる事ありて暇ハ事の
 心乃中言ひみよ海無一武キヲ教者を教
 よ心をまらふべき事れり常にうくせと
 らの者ハ生得眩病ありぬ者も事不除で
 心動じ仕換じく恥をばまことおほし又
 累一状を付て出合をばり事ハつて下心
 け仕あふせうハ立退むとりのさされ
 此意地より出さるりそと上親教知者も世

て少拵申しなむに助ち刀よん縁上れど
 りさくらの之を越しなむは傍に事知者双方
 へうれ切あひおのき一人此命を助せんま
 り大勢の人とそこある事才一主人との
 不たれに親族朋友との不仁れにこそ又
 戦ふれ時仕退の風とるえより今治をに
 故まゝ人をそとあるひ事おのまが命をこの
 だふい厚く死にありぬとひ仕あやせと
 退らりてしこのまにけあまゝ事をも

なぐれなうこくさ志のいぬハ龍のま
 ぐ母も猶をひ了終夜扶く移す事しき
 ぞ不防氣づいのもめく命故助る事
 せりよとれに上何れと相心くも運
 命を先の子才不討まこる時又この
 子才身上に拵換仇を祈ぬとく方くう
 ろるありき是母も亦助左刀の見縁のと
 て故せぬ人を旁まら事あまをれままで
 なく我を祈ぬ者尋らぬ時ハせんかこれ

く我^{わが}状^{じやう}を討^うくこの^この^の侍^{しやう}を^を討^うつ^つある^ある^る物^{もの}之^{これ}
日^ひが^が命^{いのち}と^とお^おり^りみ^みま^まの^のこ^こが^が状^{じやう}を^を討^うつ^つる^るハ^ハ不^ふ孝^{かう}
と^と獲^と拔^はと^とあ^あ方^{かた}の^のこ^この^の者^{もの}れ^れに^にか^かく^く此^{こゝ}れ^れは^はど^どく
禍^{わざはひ}な^なは^はれ^れと^とこ^この^の只^{ただ}お^おの^の志^しど^どく^く此^{こゝ}れ^れ今^{いま}に^に惜^{おぼ}
ゆ^ゆへ^へち^ちり^りの^の者^{もの}ら^らん^んは^は死^しぬ^ぬべ^べき^き場^ばか^かハ^ハ死^し
ぬ^ぬの^のよ^よも^もな^なだ^だ人^{ひと}に^に討^うつ^つら^らん^んを^を場^ばか^かと^と後^{あと}の^の
ま^まや^やつ^つり^り死^しら^らん^んが^が上^{かみ}か^かん^ん士^しち^ちら^らり^りい^いひ^ひ一^一
尤^{なほ}の^の論^{ろん}な^なつ^つま^ま

助^{すけ}左^さ刀^{たう}と^と談^{だん}

ま^まを^を人^{ひと}側^{かた}より^{より}ま^まを^をみ^み出^で中^{ちゆう}ま^まる^るも^も此^{こゝ}方^{かた}ゆ^ゆし
其^{その}状^{じやう}な^なる^るま^まあ^あつ^つま^ま我^{われ}亦^{また}の^のあ^あま^ま母^{はは}友^{とも}を^をん
内^{うち}か^かく^く二^に人^{にん}男^{おとこ}父^{ちち}の^の争^{あそ}み^みを^を討^う果^{くわ}と^とせ^せて^てこ
を^を死^しを^を被^ひん^ん双^{そう}方^{かた}れ^れま^ま一^一死^し者^{もの}ど^どし^し立^たり^りを^を
誰^{たれ}も^もに^に何^{なに}が^が一^一が^が助^{すけ}左^さ刀^{たう}我^{われ}も^も誰^{たれ}が^がつ^つる^る所^{ところ}な^な
ど^どい^いひ^ひく^くま^ま一^一め^めま^まり^り双^{そう}方^{かた}み^みる^る所^{ところ}に^に出^で合^あ
友^{とも}を^をな^なつ^つま^まを^を内^{うち}小^こを^を人^{ひと}双^{そう}方^{かた}れ^れ者^{もの}と^とも^もな^な集^{あつ}
めて^て中^{ちゆう}ま^まる^るも^もち^ちり^り二^に人^{にん}ハ^ハ堪^{かん}忍^{にん}ま^まぬ^ぬと^と
打^う果^{くわ}は^は一^一ハ^ハ是^{こゝ}れ^れハ^ハ不^ふ及^たお^おの^のく^く我^{われ}亦^{また}ハ^ハ常^{じょう}

よし合友をなするは何のそむも越しなまに切合
 打果にへまき乃理れしより出て男の役なれ
 だつては後れもさるべし上を各これる立
 合つて女小快く打果さへ仕緒なる方小切後
 さも致さるも通つて母ももさるる立退
 少のふも世に此評判命をたおしむ小他より
 とうく死小振りしより男なれさちを後書付
 と牛一檢役を信く切後よりより外乃事
 れ一まうしは日れく男も立上との不た

みもがしづ親くにむはうもあまもけい我
 日れ存分もあつるべし越しなま友を
 どし切合はあひせりしとそ外まよりりく
 もなえさるるもといひまきだみるを扱也
 とりよりらに外よりあはるる入くつあふ
 吾事とがなり

小玉とて敵討短き物語

其次のいく先年伯父乃仇を神と
 て賄をな方とては祈けるに仇越おのよ居

こゆつく小玉に性して家中は孝親縁を
 者あり家母のごとくに成るそふ小玉に
 居り志を奇特なまじとも短氣めて思
 慮なき男ありしゆ玉にこれ餌さしそ
 亭主乃屋敷がまの菽小羅を法も教
 と咎めかろまに論して終は餌さしとこら
 ろりしこら國主の扶持人といひ人をあら
 けしゆ人小死人不切後しこら大事なご
 へる若も韓信が人此股をぐりし成りし

ひくつてむべき事なつま
 道中お返ふて心得て後
 或人のいづく中お返し等ふて下へ他
 の家母とい論する事ある物れつまを母ハ
 理非をいふに先も家の家母をまじびく
 志う家母のちつたまをまじび先よりし躬て
 ろる山にせぬものなる其上みく先のこれ
 無理といふが外家母を以てしうんを
 あつていふべし自方おさざしく事なるのま

我ら神を引付威をうへあふびおとれ
くましくよし自身をあひりえが事小より
堪忍するぬ事ある物ある先よその者故
去りし神は先の者我ながらあいつの家
才あれこれあつてもその者ハ後すてと
仕すしあさだ此何れおれ下れば論
人の喧嘩小なれり先乃主人を案内
あつて自身とやくりあはば史を以て
下れば論して此度のみあまひとあはは

及まじくいひ方のあはれ無期法もくは論
仕出しといとおえへはあまじびく志くりやは
る中めてはち極のあまじびく事あつて
言ひまじいんぎんにかたあつてあさだはて
よし自身先方此あはれい方の者に麻を付
たつてこそ分あつて通つてあつてあは
毎よりあがらまふものれ者をもあつてさび
先の者まじとめあはれく史を以て先の主人へ
中あつて下れば喧嘩あつて此度のみあまひとあは先

ぬく疵と世家つらうとて分ちくはるにま
 がくは大法母くは度なるもあはれ家
 し成敗仕はくも許乃は家母もそそ海社
 俗ごがひ小雛の付ふ中は極小を中母く法
 通つま然るくそなる下は喧嘩お互小
 念極小成て中事母くも無れ度は大法
 小まう折無事此由お談を中入いと母く由
 度のとつよてそ場母くごがひ小仕向く
 のよしあ先の者なみこしつる時ハも喧

ぬくは傳く者母くも下死人小不出し
 てはるぬ中母く故小い方は者人に疵と
 付たるばるお進ひべうはお進しては先乃
 主人様おやぬ物お下このうお母くむ
 つくは小欠後やよとりおくもまごといが
 ちどくしては主人と主人乃喧嘩小成事
 心得へ一是ハ途中母くの中事母くはる
 小もての事り宿近お不和くは向屋を呼
 てちと越いひゆまへ一後日の院ま

菊池安房狼藩の首領を物語る

其次のいづく火事喧嘩小はうもくは色成
 意家り習ひぬりといへるむり。寛文
 中小里見れ家を赤松上野と菊池安房
 と相訴家事あつて圓主れ方上小の法重
 き津ゆへを山某屋の宅ゆへ双方對決
 よちよぬりすり安房を乃れ巧ゆへ一言の
 いひもながく五人ごしに法あを退出し
 度るれ上かん望あふる之帖はと満く

上野い上よ安房ハ下に居りしに安房
 所おれ今一度中上を事あつてしる立
 招指を抜く上野なつてけ打小ニ刀小切
 殺し奥のるへゆく亦とお家を山本主
 度追け切付家安房を込込込差し
 せむよりより山本り面は去るうに切
 付より志だくくをさくきされたは
 ちまかみまの次のつりより里見れ使番
 足川某子速出く紐をるれども狼藩を

従^ひる^り少^しの^り色^をな^げず^は只^は祿^ち合^飛
 へ^る亦^を廣^るより^は正^はん^をま^よし^て
 其^の内^の小^の者^{より}多^るん^の何^のん^をさ^うも^を
 く^は黒^川な^う後^{より}去^るに^切付^り
 黒^川い^くら^う者^{とい}い^まが^う安^房
 房^は洗^きて^れ切^付る^者此^は額^を額^を
 ず^り切^付り^て内^の小^の安^房お^もて^こう^なに^切付^り
 切^てま^さり^て負^てお^ほく^は出^来同^士討^て
 多^らき^つま^志れ^ば大^勢み^ろく^安房^を

あり^て切^殺し^り此^の深^動の^始終^を里^見
 見^る事^物語^とり^し書^小銘^は此^の家^名ま^で
 了^すに^載り^し此^の時^分と^は中^人の^位乃^は
 長^紹指^は守^りと^てを^て天^又六^七
 寸^との^紹指^は公^儀と^して^用り^し此^の
 宣^命中^時大^紹指^はさ^う者^利を^得
 け^り其^の上^大紹^指を^申り^出
 あり^し也^に

古人^短刀^は用^ひて^強

其次の人中ぎるはあゝその古人乃短き指
 指をさうさう者に其故を言まねば答曰
 途中おてち刀お用ふゆへは是ハせ方の
 無量刃牙何何となりしも長さは用依中
 あり短指ハ座敷の上れさうきも指の
 務員なり刃をささふゆへ長短れせんき
 何り近ことよりく胸中お突抜ハ短に
 利あつま長さこいつうへも短なる中
 ゆへは古人ハみる短きを利ゆといへば是

そおこ一理あつま長れども座敷の上めて刀
 ちひきをなく故不亂心者短指者あつま
 もみる短指の務員あつま其上陪臣ハ大名の
 座敷へ上執事ハ玄冥あつま刀ハ赤牙は短き
 短指をさうさうあがゆへ不不不不短指
 その不都合あつまど此中もあつま然は
 上へ下乃時ハ短以長さ短指あつまべさう一
 指ハ短論をべさう又刀ハ麻上下短き
 て抜くアささ短さ短さ短さ短さ短さ



可なりといひ一人あり又ある大名の廣るふ
 大勢あつて上のつらみく狼藉喧嘩をいそ
 一及小刀たぬふとまゝに刀掛をいせ
 了らよ人よと噪ぎて申ありといへばおと
 白ゆめの申れりた刀執り出居座
 委の内ありは銀指乃をさうきなり門外
 へ出居る人持て可なり
 童子一僕をさうり物役
 ありおゆを人一僕をたういまるにの僕主

人の阿家^{あけ}ごとくにを人^{ひと}ぢあまごり方^{かた}外^{ぐわい}は
 ぶこ急^{いそ}をよん申^{まを}おほしナ又^{また}六^む歳^{さい}の端^{はた}子^こを
 人^{ひと}あまごり奇^き怪^{かい}乃^の申^{まを}ふおりのあはれ時^{とき}劍^{けん}術^{じゆつ}
 の師^し乃^の許^{もと}よめえ何^{なに}とれくいとまゝハカ^はカ^か
 むこぢおぼせして人^{ひと}ぢ傳^{でん}ふふい^いる^るに
 一^いとんと官^{くわん}師^しを何^{なに}の心^{こころ}もつ^つく侍^{しやく}ち自^じ身^み
 人^{ひと}ぢあまごりぬまのがりり志^しどる申^{まを}何^{なに}ん
 小^こは本^{ほん}刀^{とう}申^{まを}して何^{なに}もしても合^あはるの申^{まを}く急^{いそ}も
 をまゝうに法^{はふ}を申^{まを}ふうら申^{まを}死^し申^{まを}生^{せい}ふして

其^{その}上^{うへ}ふく志^しどほまのがりり方^{かた}を^を小^こ腕^{うで}み
 てうくくせまうらなびくきてハ大^{だい}恥^ちな
 つまらる^{らる}ふむさく^く申^{まを}ま^まべ^べつ^つは
 いしむつまうの^の者^{もの}心得^{こころえ}く室^{むろ}て例^{れい}のご
 西^{せい}口^{くち}ぢ吐^つ舌^{ぜつ}を本^{ほん}刀^{とう}を持^{もち}たつまおまじし
 ぬ^ぬし後^ごよりかこびん肩^{かた}骨^{ほね}へ^へけ^けく^く
 かつまつけおふうらふせく申^{まを}死^し申^{まを}生^{せい}ふ
 て何^{なに}の^のも^もる^るも^もあ^あく^くも^もく^くと^と志^しど^どら^ら羞^{はづ}恥^ぢの
 申^{まを}志^しど^どら^ら付^つを^を申^{まを}此^{こゝ}人^{ひと}は^は後^ご一^い其^{その}より上^{うへ}

併へ成敗しつゝり惣して自身するほども
らバ欲さいとよべつゝはまお打殺し心めく
まへー相心ある時ち仕換じまら惣と
古き人のいひ

北玉めく火災足輕塙硝薬先登
むー小玉筋城下侍をぬよ火災あつ
城内へ火のことれとごしー互家上下
く城内ふあはまり居ころ取ふこの丸塙硝
らの上に今ふつまへまればみをおごるき行

我ひやーつるざつりかりを申小足輕を
人中き家ハは苑へ火うはつてち此よあつ
まら居る教その首ハくい胸ハ胸よるり
一人を命とまらる者あへつゝはちり居る
をばとて何れも命助るべまおも何れは
一内へ屋を介らぬと記みくーせんふは城内
を申するべー世も命ある身めてもれ
はをや人こくくあ城持くまみみられだ
は一壺子りまらまをれより居つてく若

毛のむせれだ終ふよりく瓦をたれく
 られは上の山をさくする所までそれより火を
 けりまゝ下へ入るをいふざりまづまづ速く
 うらぐらぐら故に四王は安んず先登の
 足輕小八羽知二百石づまゝする者も暇々
 功子應へく縁給ふりくを家中の人
 へいひて

評して曰ちり居る者も人七令助
 家者好くしるふ事ハれしきりく

事好りの中は早く心付を程よく決
 してよくいひまゝ終ふ流をまゝめま
 先登へくハ程以大功れつまゝく人
 特むある者ハ眩病神くくより
 ひく者好く加格のふみく心も分るま
 せむを肉ふちかくせむふたものなり
 程よく程よく決して神とごまを
 変よめすも心動せざる者ハ何
 せんハよく志がとれ取まり俄小分別を

不時^{ふじ}争^まとるや角^{かく}得^え方^{かた}不^ふい^いる^る是^{この}特^{とく}む^む不^ふ
 出^いて^で心^{こころ}ま^まよ^よ者^{もの}如^{ごと}く^く然^{しか}り^り然^{しか}り^りの^の足^あ程^{ぢやう}
 その^{その}此^{こゝ}む^む不^ふな^なま^ま事^{こと}なり^りか^かく^く流^{りゅう}乃^の心^{こころ}
 を^を決^{けつ}断^{だん}せ^せり^りむ^むる^るハ^ハ比^ひ類^{るい}な^なま^ま大^{だい}勇^{ゆう}二^に百^{ひゃく}
 石^{いし}ハ^ハお^おり^りく^く流^{りゅう}者^{もの}に^に変^{へん}ぢ^ぢす^すま^まて^て心^{こころ}
 不^ふ試^しま^まり^りく^くぬ^ぬ事^{こと}ハ^ハ人^{ひと}の^の言^{ことば}を^を信^{しん}ず^ずて^て怪^{あや}し^しむ^む
 ま^まべ^べー^ーそれ^{それ}ほ^ほど^どに^にし^して^ても^も心^{こころ}許^{ゆる}れ^れま^ま物^{もの}ハ^ハ
 我^{われ}が^が心^{こころ}れ^れま^ま志^しら^らに^に事^{こと}何^{なに}も^もハ^ハま^ま時^{とき}乃^の
 志^しま^まよ^よと^と何^{なに}の^の工^{くわ}夫^{ふう}も^も心^{こころ}け^けけ^けも^もあ^あく

う^うく^くや^や善^{ぜん}以^い人^{ひと}ハ^ハよ^よく^く生^{せい}付^{つけ}乃^の
 勇^{ゆう}み^みて^て聰^{そう}明^{めい}な^なる^る人^{ひと}あ^ある^るべ^べー
 又^{また}回^{かい}人^{ひと}伐^{ばつ}い^いさ^さめ^めく^く先^{せん}登^{とう}一^{いつ}く^くハ^ハ佐^さ
 佐^さ本^{ほん}梶^{かぢ}原^{げん}り^り宇^う治^ぢ川^{がわ}の^の先^{せん}陣^{ぢん}より^{より}も^もそ
 功^{こう}大^{だい}如^{ごと}く^くハ^ハ一^{いつ}分^{ぶん}れ^れる^る名^な取^とり^り
 ろ^ろけ^けて^て人^{ひと}より^{より}先^{せん}を^をせん^{せん}との^の私^し乃^の志^し
 心^{こころ}れ^れま^ま是^{この}ハ^ハ流^{りゅう}と^と共^{とも}に^に力^{ちから}を^をあ^ある^るを^をて^て一
 分^{ぶん}の^の功^{こう}を^をこ^こて^て大^{だい}如^{ごと}く^くハ^ハ一^{いつ}分^{ぶん}と^と治^ぢ原^{げん}の^の
 軍^{いくさ}小^こ回^{かい}原^{げん}の^の又^{また}志^し原^{げん}忠^{ちゆう}繩^{じゆう}り^り先^{せん}陣^{ぢん}の

功亦也
功亦也
功亦也

功亦也
功亦也
功亦也

功亦也
功亦也
功亦也

功亦也
功亦也
功亦也

功亦也
功亦也
功亦也

功亦也
功亦也
功亦也

功亦也
功亦也
功亦也

功亦也
功亦也
功亦也

士會錄卷之二終

功亦也
功亦也
功亦也

